

地域 FM ラジオ実習

2025 年度報告書

抜粋版

2026 年 3 月

北九州市立大学 地域創生学群 教育ワーキング

目次

抜粋版では、個人情報に配慮し、下記のみ掲載しております。
掲載内容：1.実習概要、4. 全体を通した考察

1. 実習概要 pp.1
2. 最終報告会資料（予選ポスター） . . . pp.7
3. 最終レポート pp.14
4. 全体を通した考察 pp.150

1. 実習概要

授業「指導的実習 A・B」では、初年次教育の一環として、年間を通じた地域 FM ラジオ実習を実施した。本実習では、学生は 8～9 名のチームに分かれ、市民センターでのボランティアや地域活動を通じて、地域社会の実情を学び、課題の発見と解決に取り組んだ。また、活動内容や学びをコミュニティ FM ラジオで発信し、市民へ広く情報を届けることで、情報発信者としての責任を自覚し、住民とのつながりを築くことを目指した。本実習は北九州市の「大学生×市民センターによる地域共創プロジェクト」（前年度では北九州市市民センターインターンシップ事業）の一環としても実施された。

1.1 実習の目的と目標

■目的

何かを使用する側（使い手）がその物事の背景にある考え方や人の想いを理解した上で、自らが創造する側（作り手）になることで新たな価値を生み出すプロセスを学ぶ。

■目標（目的の達成過程で目指すこと）

- ・地域で活動を行うにあたっての基本的な姿勢、マナー、考え方、チーム協働の仕方を学ぶ。
- ・プロジェクトを進めていく基本的プロセスを学び、自己の得意不得意について気づく。
- ・まちを創る人のビジョンや熱意を学ぶことで地域創生に向けた現場を理解し自らの問いを見つける。

1.2 訪問した市民センター

No.	区	名称	所在地	No.	区	名称	所在地
1	門司	錦町	門司区清滝3-5-5	9	小倉南	長行	小倉南区徳吉西3-3-16
2		萩ヶ丘	門司区大里戸ノ上3-8-1	10		広徳	小倉南区徳力6-3-2
3		大里南	門司区原町別院13-27	11		高蔵	小倉南区上吉田3-1-1
4	小倉北	霧丘	小倉北区黒原2-30-30	12		吉田	小倉南区中吉田6-27-5
5		今町	小倉北区今町3-19-2	13	八幡東	枝光北	八幡東区枝光2-8-5
6	小倉南	守恒	小倉南区守恒2-8-36	14		前田	八幡東区祇園1-5-1
7		企救丘	小倉南区徳力4-17-5	15	戸畑	沢見	戸畑区小芝2-1-4
8		長尾	小倉南区長行西1-1-1	16		東戸畑	戸畑区千防3-1-12

1.3 市民センターへの訪問頻度

各市民センターには 1 チームが配属され、隔週で訪問する。1 チームの活動頻度は最低限「週 1 日（個人では 2 週間に 1 日）」とし、7 月末まで各チーム活動を行った。その後、夏季休暇期間やラジオ放送までに各自が必要だと思う地域課題の解決に対して行動を起こすことを推奨した。

1.4 スケジュール

■実習全体スケジュール

時期	内容	時期	内容
4月	チーム分け市民センター配属決定	8～9月	地域課題解決に向けた提案・実践
	生涯学習課による「市民センターの役割について」の講義	10月	ラジオ放送準備
5～7月	センター見学・挨拶	11～12月	ラジオ放送
	定期的に訪問し実習		放送後のアーカイブ動画の編集
	活動の進捗報告	1月	最終報告会
7月	中間報告会、地域の魅力や課題の整理・提案		市民センター館長研修にて成果発表 (最終報告会優秀チームのみ)

※毎週水曜日の授業「指導的実習 A・B」では活動の進捗報告等が行われた。

※8月以降も各自が必要だと思う地域課題の解決に対して行動を起こすことを推奨した。

■「指導的実習 A (1 学期)・B (2 学期)」

1 学期		指導的実習A 2限 C-201	講義タイトル	ねらい
1	4月9日	地域FM実習のチームづくり	チームをつくろう	活動チーム内の相互理解を行い、チームとして適切に機能するように促す
2	4月16日	FM実習ガイダンス	FM実習ガイダンス	FM実習の取り組み内容について理解する
3	4月23日	FM実習について (社会教育、市民センターとは)	市民センターを知る	カウンターパートである市民センターとはどのような場所なのかを理解する
4	5月7日	先輩体験談	実習のポイントを知る	先輩の話を聞いてどのように取り組む必要があるのかを理解する
5	5月14日	特任教員講義	実習担当教員からのお話	実習担当教員との心理的距離を近くする
6	5月21日	進捗報告 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告 活動している人に着目	各チームの進捗を共有するとともに、直面する課題について教室全体で共有、確認しつつ、改善策について考える
7	5月28日			
8	6月4日			
9	6月11日			
10	6月18日			
11	6月25日			
12	7月2日			
13	7月9日			
14	7月16日	中間発表準備 (予備的スケジュール)	中間活動全体確認	活動の成果をまとめ発表する ※天候等で休講になった場合の予備的位置づけの日
15	7月23日	中間発表会	中間活動全体確認	活動の成果をまとめ発表する ※市民センター館長やまちづくり協議会の方など関係者も来場予定

2学期		指導的実習A 2限 C-201	講義タイトル	ねらい
1	10月1日	ラジオ放送に向けて	ガイダンス	地域FMラジオ実習の全体像、ねらい、具体的な取り組み等について確認する
2	10月8日	シナリオづくり	シナリオライティング講座	
3	10月15日	放送準備（2チーム×2部屋）	放送準備	番組を制作する
4	10月22日			
5	10月29日			
6	11月5日			
7	11月12日			
8	11月19日			
9	11月26日			
10	12月3日			
11	12月10日			
12	12月17日	ゼミ説明会	ゼミを選ぶ	
13	12月24日	放送分振替		
14	1月7日	深い振り返り	深い振り返り（仮）	実習を振り返り学びを深める
15	1月21日	最終発表会	地域FMラジオ実習大発表会	一連の活動を振り返り、その成果を発表する機会を通じて、学びの確認を図る

1.5 活動内容

a) 市民センターの訪問、地域課題の解決に対する活動



市民センターでの活動の様子 1



市民センターでの活動の様子 2



市民センターでの活動の様子 3



市民センターでの活動の様子 4

b) 講義・進捗報告

授業「指導的実習 A・B」では北九州市生涯学習課の方より「市民センター」や「生涯学習」について講義を受け、市外・県外からの進学者も多い学生に対して市民センターの役割や意義について講義いただいた。また、他の時間では授業内で各班の進捗（活動内容やそこから得た学びや気づき）を報告してもらい教員から実習に対するフィードバックや問いかけをした。



北九州市生涯学習課による講義



チームビルディングについての講義

c) 中間発表会

- ・日時：7月23日（水） ・場所：北九州市立大学 北方キャンパス 多目的ホール
- ・形式：ポスター発表（発表5分、質疑応答5分、移動5分の計15分を4回セッション行った）
- ・市民センターやまちづくり協議会の方々にもご来場いただき、直接学生にコメントをいただいた



中間発表の様子 1



中間発表の様子 2

d) ラジオ放送準備・放送

番組名はまちに飛び込んでこそ、まちの課題を知ることができ、解決に向けた行動ができるという信念を込めて「キタキューダイブ」となった。市民センターでの活動や学びだけでなくリスナーの興味関心を引き付けるために①チームメンバーの誰か、もしくは全員で何かにチャレンジしてみて、そのプロセスや成果を放送する「地創生〇〇やってみました」と地創生の日常の中で感じる「音」を録音、編集し解説とともに放送する「キタキューノオト（の音）」というブレイクコーナーも設けた。また、上級生がスチューデントアシスタントとして、実習生の指導やラジオ放送当日のパーソナリティ役などの役割を担った。



放送構成（CUE シート）の確認



ラジオ放送の様子

e) ラジオ放送後

放送後は、FM キタキュー公式 YouTube にてアーカイブ視聴が可能である。学生は、サムネイルや視覚効果を工夫し、ラジオ放送後も地域の方々に広く視聴してもらえるよう取り組んだ。



アーカイブ動画の例



学生が編集したサムネイル

f) 最終報告会

・日時：1月21日（水）1～2限 ・場所：北九州市立大学 北方キャンパス内教室
中間発表と同様に全チームがポスター発表を行い、投票により上位4チームが最終報告会に進出した。最終報告会で上位2位となったチームは、令和7年度の館長研修にて成果を報告した。



最終報告会（予選）の様子



最終報告会（決勝）の様子

g) 令和7年度市民センター館長研修にて成果発表

・日時：1月28日（水） ・場所：生涯学習総合センター

最終報告会では、上位2位となったチームおよび学生を受け入れた館長から事例報告が行われ、その後、グループに分かれて実習の振り返りや市民センターの目指す像について意見交換を行った。



学生の事例発表



館長の事例発表

4. 全体を通した考察

最終報告会終了後に記述式アンケートを実施し、50名の学生から回答を得た。以下では、その結果をもとに、実習を通じて見られた学生の意識変化について整理する。

① 市民センターの印象の変化

実習前は、市民センター自体を知らない学生も多く、施設の印象としては「高齢者が主に利用する場所」や「自分とは距離のある施設」として捉えられていた。しかし、実習を通して企画運営や日常的な交流に関わる中で、世代や立場の異なる人々が集い、関係を築く地域の中核的な場であるという認識へと変化が見られた。市民センターが人と人をつなぎ、地域を支える拠点として機能していることを実感する学生が多く、加えて、学生にとっても立ち寄りやすい居場所として認識されるようになった。

■具体的な記述例

「市民センターに対して最初は入りにくいイメージがありましたが、1年間の活動を通して、市民センターは、僕にとっての居場所の一つになりました。雑談や相談をするために市民センターに行っても良いんだなという印象に変わりました。」

「市民センターの職員の方々は優しく、地域の方々の居場所づくりをしています。活動も多く、地域の方々をつなげる役割をになっている。」

② 地域に対する印象の変化

実習前は、地域を「受け身で関わるもの」や「当たり前存在する背景」として捉えていた学生が多かった。一方、実習後には、地域を人々の行動や関係性によって形づくられる存在として捉えるようになったことがうかがえる。地域には課題だけでなく、人の温かさや魅力、将来への可能性があり、自身の関わり方によって地域の雰囲気やつながりが変化しうることへの理解が深まっていた。

■具体的な記述例

「高校生のころまで、私は地域に対して自分には無関係なものだと考えていた。(中略) その考えは大きく変化した。地域には年齢や立場の異なる多くの人に関わり、それぞれが役割を持って支え合っていることを知った。(中略) さらに、地域の人から感謝の言葉をかけられた経験を通じて、自分の行動が地域に影響を与えていることを実感した。現在では、地域は自分が関わることでより良くしていける存在であり、主体的に関与することに意義があると感じている。」

③ 地域課題（社会課題）への認識の変化

授業やニュースを通じて知っていた地域課題について、実習前は抽象的で、データや事例として地域課題を捉える傾向が見られた。しかし、地域の現場に関わる中で、課題が一人ひとりの生活や感情、地域の歴史と結びついた具体的なものであることを理解するようになった。また、地域には課題に向き合い続けている担い手が存在し、日々の小さな実践の積み重ねによって地域が支えられていることへの気づきも確認された。

■具体的な記述例

「授業やニュースで知っていた社会課題は、『少子高齢化』『地域の担い手不足』など、どこか遠い場所の出来事として捉えていました。しかし、実際に地域の現場に関わってみて、これらの課題は数字や言葉だけでは語れない、とても身近で複雑な問題だと実感しました。たとえば担い手不足一つをとっても、『人がいない』だけでなく、長年関わってきた人ほど責任を手放せない思いや、変化への不安があることに気づきました。また、外から見れば非効率に思えるやり方にも、その地域なりの理由や積み重ねがあり、簡単に『改善すべき』とは言えないことも理解できました。現場に入ったからこそ、課題の背景には人の感情や関係性が深く関わっていることを学びました。この経験を通して、社会課題に向き合うには、正解を押し付けるのではなく、地域の声に耳を傾けながら一緒に考える姿勢が何より大切だと感じています。」

④ 今後の地域への関わり方の変化

今後の地域との関わり方について、学生の多くは「外から変える存在」や「一方的に支援する立場」ではなく、地域を自らも責任をもって関わる場として捉え続けたいという考えが伺えた。地域の人々と同じ目線に立ち、思いや魅力を丁寧に受け止め、共有していくこと、そして地域の一員として共に考え、共につくっていく姿勢が共通して見られた。

■具体的な記述例

「地域に対して私は外部からの視点で新しいことばかりを吹き込む存在ではなく地域の良さを無視することなく変わらない事の大切さも考えながらどうしたら持続可能な地域になるか住民の方と一緒に考えていけるように働きかけたいと思います。そのために、地域の歴史や文化などの背景を理解する力と、住民の方の思いに耳を傾ける対話力を学ぶ必要があると考えます。また、成功事例だけでなく失敗事例も知ることで、外部の視点を一方的に押し付けない姿勢を身につけたいです。そうした学びを通して、地域の良さを尊重しながら住民と共に持続可能な地域の在り方を考えられるようになりたいです。」

■謝辞

本実習の実施にあたり、多大なるご協力を賜りました北九州市生涯学習課・市民センター関係者の皆様、ならびに地域住民の皆様、そして関係いただいたすべての方に、心より感謝申し上げます。



北九州市立大学
地域創生学群
REGIONAL DEVELOPMENT

地域 FM ラジオ実習 2025 年度報告書

2026 年 3 月 31 日発行

作成：北九州市立大学 地域創生学群 教育ワーキング
(廣川祐司・眞鍋和博・片岡寛之・村江史年・見館好隆・山本浩二)

責任編集：矢ヶ井那津

※本報告書は、公益財団法人北野生涯教育振興会の研究助成を受けて作成されました。